



平成 26 年 9 月 8 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 リ プ ロ セ ル
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 横 山 周 史
(コード番号：4978)
問 合 せ 先 取 締 役 片 山 浩 美
(TEL. 045-475-3887)

Stemgent の iPS 細胞事業の買収によるシナジー効果について

この度、当社グループは、直近の Reinnervate（英国）・BioServe（米国）2 企業の買収に続き、Stemgent（米国）の iPS 細胞事業の買収を決議しましたので、これら 3 社を含めた当社グループにおけるシナジー効果と今後の戦略についてご説明いたします。

グループシナジー① iPS 細胞技術の優位性

Stemgent は、iPS 細胞技術の上流から下流までをカバーする幅広い技術と製品を有していることが大きな特徴になります。

特に、iPS 細胞の作成技術（リプログラミング）においては、mRNA Reprogramming という最先端の技術により、効率的かつ安全で、より臨床応用に近い iPS 細胞の作成を可能としています。BioServe の細胞バンク事業と組み合わせることで、多種多様な iPS 細胞を効率的に作成することが可能になり、今後、細胞製品のラインナップが大幅に広がります。

さらに、Stemgent は、iPS 細胞から神経細胞や心筋細胞などへ変化させるプロセス（分化誘導）においても、特殊化学技術を用いてより効率的かつ品質の高い分化誘導を可能としています。また、Reinnervate の三次元培養技術を使うことで、より高機能な細胞が得られることが知られております。今後、当社グループでは、Stemgent の特殊化学技術と Reinnervate の三次元培養技術を組み合わせることで、より高機能な iPS 細胞製品の開発を目指してまいります。

以上、Stemgent、Reinnervate、BioServe の技術を組み合わせることで、iPS 細胞製品の技術優位性の確保を徹底させるとともに、再生医療の実現へまた一步前進してまいります。

グループシナジー② 日米英にわたる強固な研究開発体制

当社は、日本の京都大学の中辻憲夫教授と東京大学の中内啓光教授がファウンダーとなり設立した会社であり、さらに、国内の最先端の研究者と幅広いネットワークを構築しており、これらの技術基盤が当社の強みの一つとなっております。Stemgent も同様に、著名な研究者を技術顧問に招聘するなど、米国の最先端の研究者と幅広いネットワークを構築しており、これが同社の研究体制の大きな強みとなっております。さらに、Reinnervate は英国のダーラム大学発のベンチャー企業であり、BioServe も米国国立衛生研究所の研究員が創業した企業であり、それぞれ卓越した技術基盤を有しております。今後、当社グループとしては、各社の保有する日本、米国、欧州の技術基盤の連携を強め、より強固な研究開発体制を構築して参ります。

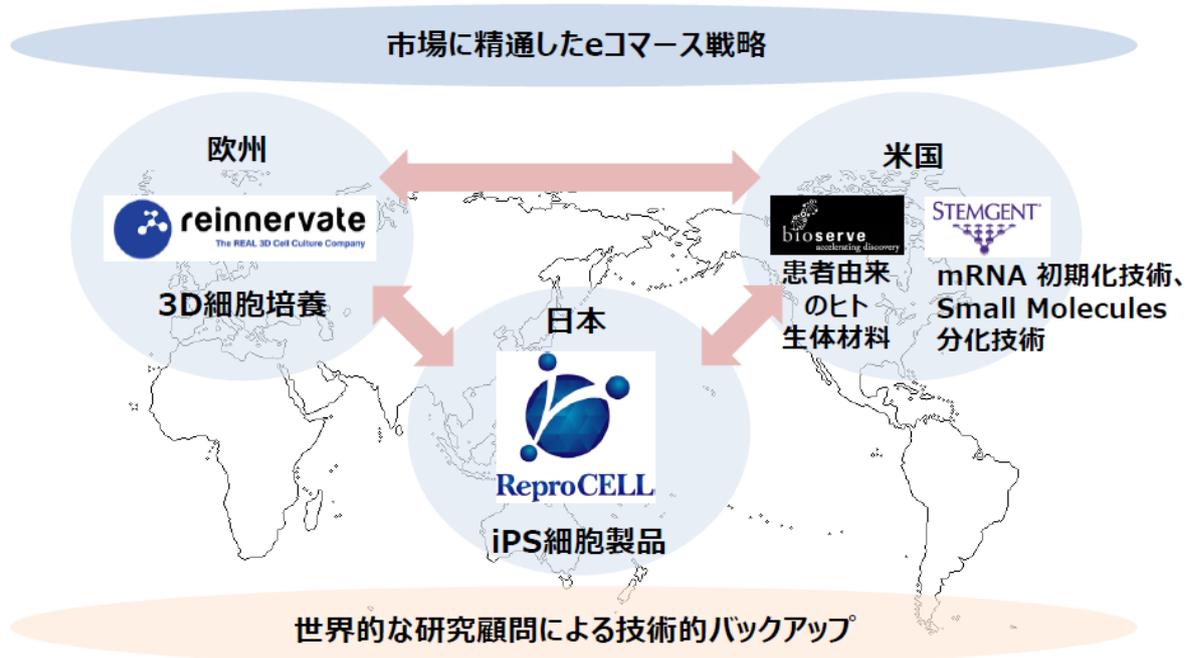
グループシナジー③ 営業・マーケティングのグローバル展開

Stemgent の顧客基盤は米国を中心とする大学や製薬企業であり、Reinnervate、BioServe および当社の対象顧客と合致いたします。今後、グループ全体の販売について、それぞれ 4 社の顧客基盤を最大限に

活用し、グローバルな販売網を構築してまいります。また、Stemgent は、e コマースに関しても豊富な実績を有しており、今後、グループ全体として、e コマースにも注力し、一層の販売力の強化に努めてまいります。

以上、上記のグループシナジー効果による当社のグローバル展開の加速と技術競争力の強化によって、創薬や、再生医療などの最先端医療への貢献を積極的に推進して参ります。

ReproCELLグループのグローバル展開



以上